

KHJ「岡山きびの会」

《11月例会ご案内》

- ◎ 平成14年11月17日(日) 13時～
- ◎ 於・岡山県総合福祉会館
岡山市石関町2-1 (TEL. 086-226-3501)
— 駐車場は各自で確保してください —
- ◎ 13:00～受付 13:30～開会 17:00終了
- ◎ 参加費・月例会費 1000円
・初参加の方は、別に入会金1000円

【前半】《引きこもり体験》に学ぶ

『挫折からの挑戦
— 夢と希望に向かって —』

体験発表：新良(にう)昌宏さん

(川崎医療福祉大学3年，当会ボランティア)

体験発表の後，座談形式で自由な質疑応答を行います。

【後半】《グループ別話し合い》

- ◆ 「親子の対話」ができない
- ◆ 「暴力」で困っている
- ◆ 「神経症状」がひどい
- ◆ 「外出」ができない
- ◆ 「仕事」の場がほしい
- ◆ 「不登校」で悩んでいる
- ◆ 「父親」だけのグループ
- ◆ 「初参加」の親のグループ
- ◆ 「たまり場」参加者の親のグループ (参加希望の方もどうぞ)
- ◆ 「わかばグループ」 (本人と若いボランティア)

「きびの会」のみなさんへ

- ※ みんなの知恵と力を合わせて，手作りの会に育てましょう！
- ※ 心を開ける仲間を見つけて，互いに支え合っていきましょう！
- ※ 子どもへの接し方を学んで，親子とも楽になりましょう！

能登邦彦

◎「岡山きびの会」連絡先

〒701-0111 倉敷市上東1244-9 能登教育コンサルタント事務所

TEL. 090-3881-9345 (きびの会専用携帯電話)

他に，電話による問い合わせは下記にもできます。

0868-23-3294 川島(津山) 086-424-7162 織井(倉敷)

〈引きこもり〉問題対応

関係各位様

全国引きこもりKHJ親の会（家族連合会）

「岡山きびの会」

会長 能登邦彦

〈引きこもり〉の親の会

「岡山きびの会」 支援へのお願い

平素より青少年の健全育成，健康・福祉の向上のために多大のご尽力をいただき，誠にありがとうございます。

平成13年12月に，県内で〈引きこもり〉の子を持つ親の私たちが初めて手を取り合って，全国20番目の家族会「岡山きびの会」を発足させ，（H14.10）現在約160家族が参加しています。県下でも1万数千と推定される〈引きこもり〉家族のまだ1%にすぎませんが，私たちはそれぞれに様々な苦しい状況のもとで，互いに励まし合い，学び合い，支え合いながら歩みつづけてきました。

平成13年に出了された厚生労働省の「〈社会的引きこもり〉ガイドライン」（暫定版）に沿って，14年度から県の「引きこもり脱出支援サポータ育成事業」が始まり，会としても数名が研修受講に参加し，新たな希望を与えられています。

関係行政機関・医療機関・相談機関・関係施設・関係団体・等におかれましても「岡山きびの会」（引きこもり家族会）へのご理解とご支援をいただきますよう，また担当者の方々へもお知らせくださいますよう，よろしく願いいたします。

さらにまた，それぞれの担当の方のもとで相談を受けておられる〈引きこもり〉家族の人たちにも，家族会として支え合いの輪が広がりますよう，私ども「岡山きびの会」をご紹介いただけますなら，たいへんありがたく思います。

なお，「岡山きびの会」の連絡先は下記の通りです。

〒701-0111 倉敷市上東1244-9 能登教育コンサルタント事務所

TEL. 090-3881-9345（きびの会専用携帯電話）

他に，簡単な問い合わせは下記でも受けております。

0868-23-3294 川島（津山） 086-424-7162 織井（倉敷）

「岡山きびの会」では、本年(H14)7・8月に〈個人カード〉記入を実施し、現在63家族の集計がなされている。以下は、その一部である。

- ① 引きこもり本人の年齢 … 平均26.4歳 最年長43歳 最年少14歳
- ② 父親の年齢 ……………… 平均58.4歳 最年長73歳 最年少45歳
- ③ 母親の年齢 ……………… 平均54.9歳 最年長70歳 最年少40歳
- ④ 引きこもり年数 ……………… 平均6年5ヵ月 最長期18年 最短期 1年
- ⑤ 医療機関・相談機関等への相談 ……………… 79.2%
(精神科・心療内科・相談所・カウンセラー・他)
- ⑥ 上記以外への相談 ……………… 77.8%
(漢方・鍼灸・気功・宗教関係・姓名判断・占い・霊視・他)
- ⑦ 家庭内暴力がある ……………… 36.2%
- ⑧ インターネットを利用している ……………… 48.2%

※ 各項目の有効回答数(A)及び回答率(B) —

- ① (A62, B98%) ② (A58, B92%) ③ (A63, B100%) ④ (A49, B78%)
⑤ (A53, B84%) ⑥ (A27, B43%) ⑦ (A58, B92%) ⑧ (A27, B89%)

9月度 KHJ岡山きびの会各グループまとめ

平成14年9月15日

A・対話が出来ない。・・・8人(司会含む)

*思いやりがあってやさしい子供たち *親が受けた指導をそのまま受け渡してしまった。 *過食、拒食もがまんが続いた結果 *子供の状況に合わせて一緒に行動して行って子供との気持ちが通じるようになってきている *幼い頃は人の中で接触しながら育ったほうが良いのでは・・ *親父が毎日子供に手紙を送りつづけたので気持ちが通じた

*子供を含めて家族の協力体制ができると家庭の雰囲気良くなる。父親には特に娘の助言が大きい影響を与える。

B・暴力で困っている。・・・5人

*命がけの日々が続く中で親は心身ともに疲れてしまう。どう生きたらよいか。 *親の考え方について、この会で学ぶことが多い。 *暴力行為は部屋に閉じこもって長期になると出て、時にどうしても暴力に走るケースが多い。 *自分の(カラ)に入れたい。母親から、そして父に対しても自分に従わせる為に暴力を振るう。*決して諦めないでください。しかし時にほっておく、時には入り込む、時にはやさしく。 具体的には？

*良かったこと。母子の密着から離脱・離れることの大切さ

C・外出が出来ない。・・・4人

*ワニ診療所へ行けばデイサービスがある。思春期問題扱っている。こら一岡山は一般の家のような雰囲気である。 *動物を飼うことは子供、家族に対してよい雰囲気になった。動物のおかげで外出できるようになった。家族と一緒にテレビを見ることが出来るようになった。犬を通しての全話が
多く出来るようになった。

*世間一般の当たり前を本人へ言わないように。そして頼みごと、会話などで強制しないこと。*病院へ行ってカウンセリングなど利用したほうが良いのでは・・・

D・仕事をさせたい・・・8人

*能登先生のワンポイント“見捨てないように”親の会にきていることは諦めていないことの証明でもある。 *人間関係の付き合いが不得手。話がうまくできない、みんなに合わせるのが苦手 *自己主張が出来ない、自己主張が強く我慢できない。自分からしゃべれない *人と話ができると思いついでいる *世の中の競争社会の中で競争しながら働くことに向いていない。働く為には何らかの保護が必要なのかも知れない。働けるような会社を作るのも案

E・神経症の対応・・・5人

* 希望をもって頑張る *子離れをする *親の会には必ず出席をする。

F・不登校・・・参加者無し

G・新規参加者・・・5人

*会計は報告してほしい *参考になる講師の話を知りたい。ひきこもりを克服した人の話を聞きたい *全員が他人の目を意識する。*他者との話が苦手である *何事も几帳面すぎる

H・本人グループ・・・3人

* 本日は参加者が少なくて寂しかった

* 自己紹介から趣味(陶芸・ピアノ)や芸能の話をした。

* 免許を取る話や、どこで服を買うかなどのお話をする。

* 女の子のメンバーが増えればよいのにね!・・・男の人もちろんそうですが

暮

ひきこもり

ひきこもり

「楽をしているように冷感庫をあさったり、見えるかもしれないけど、インスタント食品で済ませたり、友達がいなくてもいいから、姉と妹の結婚だって、罪悪感にさいなまれ続けた。心が休まることは一度もなかった。」

岡山県南部

にある閑静な住宅街。雑誌や漫画、ビデオなどが雑然と広がった二階の六畳間で、奥山達彦さん(33)は、大きな体をいすにもたせかけ、吹っ切れたように口を話してはじめていた。

ある若者の場合

10年苦しみをやっとな解放

■心に深い傷

「なぜ」と聞かれても長続きしない。「自れ、不安が心を覆う悪循環を繰り返して来た」と奥山は、

はつきりと答えられない。ただ、高校時代に受けた「心の傷」が伏線となっていたのは事実だ。進学学校に入ったものの抑えられず、傷はどんどん深くなっていった。

■「安全」な場所

奥山さんは昨年の夏まで10年間「ひきこもり」を続けていた。

就職もせず、ぶらぶらと過ごしている自分に向

近年、大きな社会問題としてクローズアップされている「ひきこもり」。学校にも仕事にも行かず、自分の部屋に閉じこもるといって暗いイメージが先行しがちだが、その「実像」は、一般にあまり知られていない。長年ひきこもっていた若者を例に、その心の苦しみ、解決に向けた方策などを考えてみた。

「絶対」「お前、これからどうなんだ」となるでしょ。当然のことかできない自分に一番いい方法はないけど、ショックを受けるとです。」



大空に向かって羽ばたく、羽の傷も癒え、力強く飛翔し……

親の接し方変わったのが転機

「自分が悪事があるのかわかって、親の接し方変わったのが転機。最近、父親から新聞販売店の仕事を勧められている。「僕なんかには務まるのかって不安もあるけど、やる前からあれこれ心配しても仕方ないし、前向きに考えよう」と思っています。」

読者とともに考えます

「暮らしのあしもとから」は家庭面に随時掲載します。今回の「ひきこもり」に関する感想、取材してほしいテーマ、暮らしの知恵、みなさんのご意見をどしどしお寄せください。あて先は〒700-8734、岡山市新屋敷町1-1-18、山陽新聞社文化家庭部(086-244-3912、ファクス086-246-3218)「暮らしのあしもとから」係。メールのアドレスは、bunka@sanyo.oni.co.jp

■今のままで

「今、許してくれ不安になる。できるなら、自然と涙が流れてほしいです。楽になり、自然と涙が流れてほしいです。楽になり、自然と涙が流れてほしいです。」

■つながる…

九月半ば、岡山市内の居酒屋。奥山さんの携帯電話からメールの軽やかな着信音が流れた。すぐにポケットから取り出し打ち返す。「車の免許をとる友達がいるんで、今はずっとつながっている」と実感できるのがうれし